

海難事故事例

東北地方で今年10月に発生した海難事故を紹介します。

荒天下、沖合で燃料補給中、波を受け、船が転覆！

男性3名が乗船したプレジャーボート（長さ約7.3m）は、釣りを終えて帰港中、燃料が切れてエンジンが止まったため、燃料携行缶から燃料を補給しようとしていたところ、船尾から大量の波が打ち込み、浸水したことから、直ちに携帯電話から118番通報で救助を求めました。その後、船は転覆しましたが、船底に上がって救助を待っていたところ、当庁の巡視艇により3名とも無事救助されました。3名とも救命胴衣を着用していました。

当日の天候は、晴れていましたが、風が10メートル以上吹いていて、波も2メートルを超えていました。

【転覆事故の防止のために】

出港前に最新の気象・海象情報を入手しましょう。

強風や高波が予想される場合は、

出港を取り止める又は早めに帰港する決断が必要です。

(参考) 転覆した船



これからの季節は、水温も低下し
「海中転落 = 死亡事故」
の可能性が非常に高くなります。



釣り中の事故事例

荒天下、ゴムボートが破損し岩場に孤立

男性2名は、釣りの為、ゴムボートで岩場へ渡たり、ゴムボートを揚収していたところ、風が強まり、釣りどころではなくなったことから、直ちに帰還しようと再度ゴムボートを準備している最中に、オール先端部を破損し、帰還できなくなりました。その後、携帯電話で118番通報して救助を求め、2名とも無事救助されました。2名とも救命胴衣を着用していました。

【事故防止のために】

前の事例と同様、強風や高波が予想される場合、

釣りに行くのを取り止める決断が必要です。

岩場のように突起物の多い場所では、

ゴムボートの浮体に穴が開いてしまうこともありますので、

ゴムボートを使用して岩場に渡ることは避けましょう。

冬期における船の荒天対策

冬期に使用しない船については次の対応をお願いします。

陸揚げ保管の実施

- ・ 気象や海象の影響を受けづらく、船体への負担も少ない。
陸揚げ保管不可の場合は、静穏度の高い場所での係留を推奨します。

係留の強化

- ・ 増しもやい、古い係留索の新品への交換、防舷物の追加などの荒天対策を行いましょう。

定期的に船を確認

- ・ 岸壁等へ係留している船舶は、定期的に自船の状況を確認しましょう。
長期間放置し、管理を怠ったことによる船舶の流出事案が過去に発生しています。



自分の身を守るためには、自らの心がけが第一歩です！



マリレ情報よるず屋

～バックナンバーはこちら～

海の安全情報スマホ版サイト

(沿岸域情報提供システム)



マリレ情報よるず屋に関するご質問等は、「022-365-9609 (直通)」までご連絡ください。担当者がお答えします。パソコンの方：「マリレ情報よるず屋」「海の安全情報」で検索！